

薬剤師の採用状況等に係る調査結果について（令和2年9月実施）

令和2年11月25日

医療・保険課

本県では、県内の薬剤師不足を背景に、平成24年度から、鳥取県薬剤師会等と連携して、薬剤師確保対策事業に取り組んでいるが、この度、県内の薬剤師の採用状況、需要動向等を把握するため、病院・薬局を対象にアンケート調査を実施したので、結果の概要を報告する。

1 調査時点等

- (1) 調査時点：令和2年9月1日
- (2) 調査対象：43病院、274薬局
- (3) 回収率：76.3%（病院：79%、薬局：75.9%）

2 今回の調査結果

(1) 令和2年度の薬剤師採用実績（常勤換算）（令和2年4月1日～9月1日 ※一部3月下旬採用含む）

今春以降、新たに薬剤師（パート等を含む）を採用した病院・薬局の状況は次のとおり、前回調査時と比べ、採用施設数及び採用人数ともに増加している。

	今回（R2）調査	前回（H30）調査
採用施設数	49施設（+9）	40施設
採用人数	54.3人（+6.4）	47.9人
うち新人薬剤師数	34.8人（+6.8）	28人

(2) 薬剤師の需要（常勤換算）

今回調査では、「早急に必要薬剤師数」及び「将来的に必要な薬剤師数」ともに前回から減少しており、薬剤師不足の逼迫した状況がやや改善傾向にあると考えられるが、一定の不足感は継続している。

また、業態別に比較すると、病院の方が改善率が悪く、また「早急に必要薬剤師数」も増加傾向にあることから業態により採用状況に差があることが考えられる。

（単位：人）

	前回（H30）調査（A）			今回（R2）調査（B）			差引（B-A） 【増減割合】		
	病院	薬局	計	病院	薬局	計	病院	薬局	計
早急に必要（1年以内）	41.6	68.6	110.2	43.8	53.9	97.7	2.2 【+5%】	△14.7 【△21%】	△12.5 【△11%】
将来的に必要な（5年程度）	39.6	119.8	159.4	32	97.3	129.3	△7.6 【△19%】	△22.5 【△18%】	△30.1 【△18%】
計	81.2	188.4	269.6	75.8	151.2	227	△5.4 【△6%】	△37.2 【△19%】	△79.8 【△15%】

(3) 薬剤師を必要とする理由

①早急に必要理由

前回調査時と同様に、「勤務体制に余裕がない」、「育休・退職等予定あり」などが主な理由であり、特に薬局では「繁忙時に患者対応等で支障が出ている」との回答も多い。

その他では、病院では、「業務の増加」、「時間外勤務の削減」、薬局では、「時間外勤務の削減」「勤務薬剤師の就労環境の確保」などの理由もあった。

②将来的に必要な理由

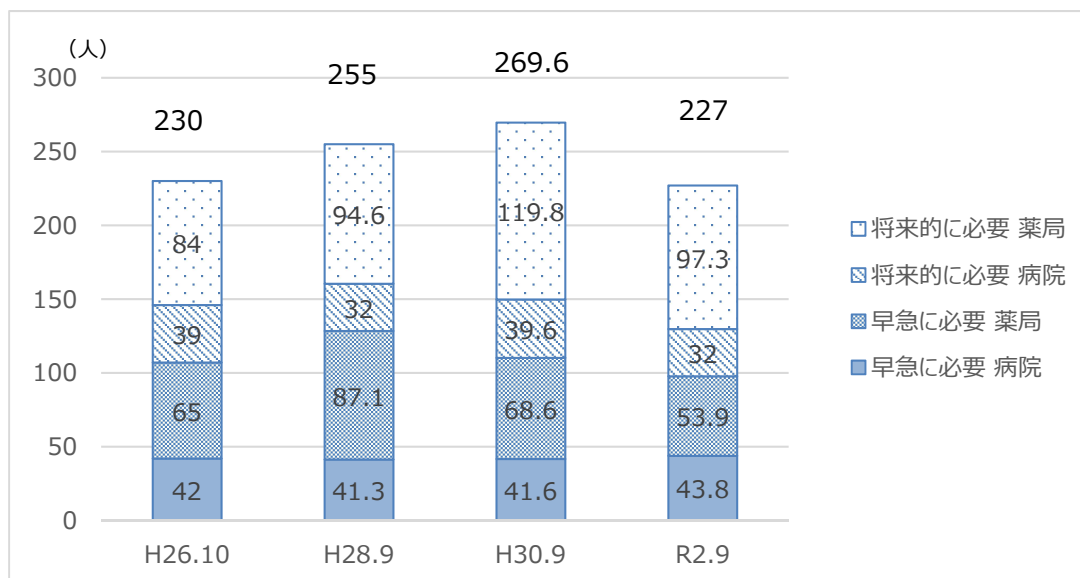
将来的に薬剤師が必要と回答した74薬局のうち43薬局（58%）が、「業務の充実・拡大を希望」と

回答しており、うち半数以上が在宅業務を明示した回答であった。

3 薬剤師の需要の推移

病院の「早急な必要人数」については、近年、ほぼ同程度で推移しているといえ、40人程度の不足感が継続している模様。

薬局の「薬剤師必要数」は本調査においては減少しているが、在宅医療や施設・居住系介護サービスの需要増が進展する中で、薬局・薬剤師は地域包括ケアシステムを担う一員として、医療機関と連携しつつその専門性を発揮し、患者に安全かつ有効な薬物療法を切れ目なく提供する役割を果たすことが求められており、薬局の業務の拡大に伴う人材の確保は引き続き必要となることが考えられる。



これまで、様々な薬剤師確保対策を講じてきているが、今回の調査においてやや改善（薬剤師必要数の減少）がみられたことから、これまでの対策の成果であると考えられる一方、業態別にみると病院においては早急に必要薬剤師数の減少は見られず、一定の不足感は継続している。引き続き、薬剤師を取り巻く環境や制度の動向を注視しながら、関係者と連携して、薬剤師確保対策を推進する必要がある。

（参考）平成30年度以降 実施してきた薬剤師確保対策（主なもの）

1 高校生・保護者等向けセミナー

薬学部設置大学から講師を招き、薬学部のカリキュラムや授業の紹介、特色などを紹介するとともに、県内の様々な職種で活躍する若手薬剤師の体験談の発表などを通じて、高校生や保護者等の薬学部や薬剤師についての理解を深め、薬学部進学につなげることを目的として、県薬剤師会が主体となり平成27年度から実施。（今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインで開催予定。）

2 薬学生インターンシップ

薬剤師を目指す全国の薬学生を対象に、県内の病院、薬局、行政機関において、薬剤師の様々な業務や就業環境の体験機会を提供し、卒業後の進路検討の参考としていただくとともに、県内就業のきっかけづくりを促進することを目的として、平成26年度から実施。平成30年度からは、夏期及び春期の年2回開催している。（今年度（夏期）は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催見合わせ）

3 大阪薬科大学との就職支援協定の締結・協働事業の実施

今年4月に、薬系単科大学の大阪薬科大学、（公財）ふるさと鳥取県定住機構と就職支援協定を締結。本県と同大学の協働事業として、同大学のオープンキャンパスに参加を希望する県内の高校生・保護者を対象として送迎バス（無料）を運行。（今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催見合わせ）

4 薬剤師確保に向けた意見交換会

平成29年度から、これまで実施してきた事業の検証、課題の整理、今後取り組むべき事業等について教育関係者、移住定住推進関係者等を交えて、関係者による意見交換を実施。